

はじめに

昨年は「愛づる」をテーマにしました。今年は「語る」。共通点は時間です。生きものは時間を紡ぐもの。時間を捨象した科学技術文明社会の中で生きものを基本に考えようとした時、自ずと浮び上がったのがこれらの言葉です。

今、「時間」の大切さを考えている方は増えている。今年も多くの方の協力を得て活動をしてきた実感です。季刊BRHカードと生命誌ジャーナル(Web)をまとめて一冊にしてみても改めてそれを感じています。ここで語られていることの一つひとつをていねいに読んで下さると、そこから大事なことが引き出せるはず。それぞれの方が、生きものについて、あゝそうなのかとか、これはどうなっているのだろうかと考えて下さるきっかけになることを願っています。

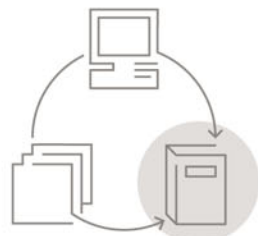
今年は研究館を訪れて下さる方が増えました。しかもさまざまな方が。高校生も大学生もお年寄りも、そして3歳の坊やが、しばしばやってきて「おもしろい」と言ってくれるのには感激です。残念ながらいらっしやれない方、この本を通して生命誌研究館を体感して下さい。そしていつか高槻までいらして下さい。

JT生命誌研究館館長 中村桂子

生命誌の発信媒体について

生命誌ジャーナル(web)

- 2004 夏(41号) 2004 秋(42号) 2004 冬(43号) 2005 春(44号)



- BRHカード 41号 42号 43号 44号

生命誌 2004 年度末に、BRHカードと生命誌ジャーナルをまとめて生命誌年刊号として発行

イントロのイラストについて

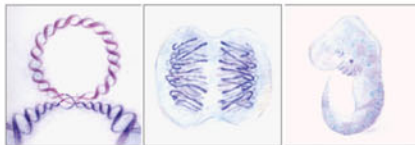


illustration by Akashi Hiromi 現在から38億年前へ、さまざまな生きものにみられる共通のしくみを辿る28点のイラストから3点を引用しました。



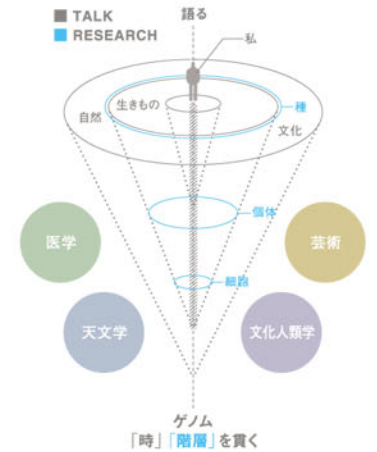
illustration by Kikutani Utako 38億年前の生命誕生から現在に至る生きもの多様化の様子を辿る28点のイラストから19点を引用しました。

「生命誌の階段」生命誌研究館1F~4F 38億年前の一つの細胞から始まる豊かな生きもの多様性(多様性)とつながり(共通性)を、展示されているイラストなどで体験できる(詳細→P210)。



TALK_語る
ゲノム:「時」を貫く
014 41 TALK 宇宙誌と生命誌 理解と価値をつなぐ 小平桂一×中村桂子
028 42 TALK 語る舞台 世界観を築く 遠藤啄郎×中村桂子
042 43 TALK 語る叙事詩 生きものとの人と人間 川田順造×中村桂子
058 44 TALK 解剖学の歴史 語りきれない人体とゲノム 坂井建雄×中村桂子

RESEARCH_語る科学
ゲノム:「階層」を貫く
076 01 RESEARCH 大量絶滅 生物進化の加速装置 磯崎行雄
082 02 RESEARCH 環境と文明の関係 そして近未来を語る年稿 安田喜憲
092 03 RESEARCH 「野生の科学」の可能性 イヌイトの知識と近代科学 大村敬一
100 04 RESEARCH メダカ 日本が育てたモデル動物 武田洋幸
110 05 RESEARCH 新しい形は「土台」から 解剖学で見直す多様化のしくみ 丹羽尚
118 06 RESEARCH なぜ今、クモなのか? 胚発生が描く進化の道すじ 秋山-小田康子
130 07 RESEARCH 共生のしくみ 植物と土壌微生物の遺伝子ネットワーク 林誠
138 08 RESEARCH まわる分子との対話 ATP合成酵素のしくみを探る 野地博行



ART in BIOHISTORY_語る表現 [日本文化の中の生きもの]

088 I. やまと絵の四季
108 II. 描かれた生きものを探る
126 III. 観察と表現

SCIENTIST LIBRARY_人を通して語る

148 41 SCIENTIST LIBRARY ササラダニの分類から学んだ自然 青木淳一
166 42 SCIENTIST LIBRARY 生きもの理論を探して 堀田凱樹
182 43 SCIENTIST LIBRARY 縁から中心を捉える科学—好熱菌を通して 大島泰郎
198 44 SCIENTIST LIBRARY 酵素に恋して アーサー・コンバーグ

What's BRH

210 館内 Information
212 From Lab
214 From SICP
216 研究館グッズ